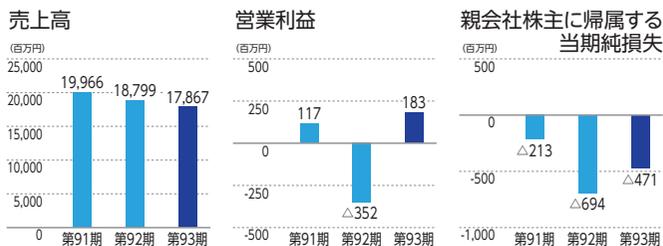




## 決算ハイライト



## 自動車部品事業

乗用車、トラック、建機の内外装部品を各メーカーに供給。シート、布、フィルム、塗装等の加飾技術による高付加価値製品の提供。開発・設計から量産までの一貫体制で対応。

### 売上高 10,669百万円

国内部門におきましては、中東向け乗用車、トラック部品及び三次元加飾工法、外装塗装品は堅調に推移したものの、全体的に生産台数が減少したため売上高は減少いたしました。



海外部門におきましては、タイの自動車生産が期末に向けて減少し現地子会社であるECHO AUTOPARTS (THAILAND) CO., LTD. の売上高は国内同様、減少いたしました。

この結果、当事業の売上高は106億69百万円となり、連結会計前年度比9億85百万円減少いたしました。営業利益は黒字となっております。

## 住宅設備・冷機部品事業

キッチン、トイレ、バスなど水周りに活用される洗面化粧キャビネット、浴室キャビネット、洗濯機パン、浴室天井などの樹脂製品を供給。



### 売上高 6,320百万円

国内部門におきましては、消費増税前の駆け込み需要の増加がありました。売上は前年度比で微減になりました。利益は大幅に増加いたしました。

しかしながら、海外部門におきましては、タイ子会社であるTHAI KODAMA CO.,LTD.、ベトナム子会社であるTHAI KODAMA (VIETNAM) CO.,LTD.は、冷機市場の輸出不振や現地の構造変化等により、また、中国子会社である無錫普拉那塑膠有限公司では、米中貿易摩擦悪化に起因する需要の低迷により、其々苦戦を強いられ、売上高は大きく減少いたしました。

この結果、当事業の売上高は63億20百万円となり、連結会計前年度比1億1百万円減少となりました。不採算分野の整理や原価改善を行った結果、営業利益は大幅に増加いたしました。

## エンターテインメント&物流資材事業

ゲーム用パッケージ、自動車部品用トレーなどの樹脂製品を供給。

### 売上高 877百万円

映像用ソフトパッケージ及びゲームソフトケースは、新作ソフトがヒットし、いずれも売上高が増加致しました。

この結果、当事業の売上高は8億77百万円となり、連結会計前年度比1億55百万円増加。営業利益は黒字となっております。

## 会社概要・株式情報

### 会社概要 2020年3月31日現在

商号 児玉化学工業株式会社  
 (英文名) KODAMA CHEMICAL INDUSTRY CO.,LTD.  
 設立 1946年3月8日  
 資本金 33億43百万円

### 役員 2020年6月26日現在

代表取締役	坪田 順一	社外取締役	中 眞人
取締役	齋藤 義一	社外取締役	遠藤 健二
取締役	黒沢 清和	社外取締役	横路 明夫
社外取締役	貴島 彰	社外取締役	森本 雄二
社外取締役	中村 公泰	社外取締役	鈴木 洋之

### 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
同連絡先	同上
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="https://www.kodama-chemical.co.jp/">https://www.kodama-chemical.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)  
 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。  
 2. 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

### 株式に関するマイナンバー制度のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きが必要となります。このため、株主様からお取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

## WEBサイトのご案内

当社ホームページでは、企業情報や最新のIR情報など、幅広い情報を提供しております。

<https://www.kodama-chemical.co.jp/>

児玉化学工業

検索



## ■ 社長インタビュー



代表取締役社長  
坪田 順一

### 就任にあたって

この度、代表取締役社長に就任いたしました坪田 順一と申します。私は昨年4月に顧問として入社し、6月に常務執行役員となって以後、微力ながら新たな中期経営計画に沿って、事業ポートフォリオ改革・自動車部品事業での生産安定化および拡販・全社コスト削減と経営組織力強化等からなる「事業

構造改革」を社員一同とともに推し進めてまいりました。

事業改革に奇手はなく、常に愚直に、一心不乱に進むことのみが成功の要諦と考え、隗より始めよの故事に倣い進めてまいりました。結果、第2四半期以降次第に業績の改善という形で小さな光が見えてきました。まだまだ私どもが目標とするところには辿り着けておりませんが、改革への第一歩を踏み出したと自負しております。

本日は、私どもが手がけてきた事業構造改革の進捗と当社の再生に向けた今後についてご説明し、ご理解を賜りたいと存じます。

### 愚直に、愚直に、一歩ずつ改革を進める。

この1年、私たちは中期経営計画に全力で取り組み、確かな感触を得ました。

#### ① 事業ポートフォリオ改革

当社は1946年創業。樹脂加工技術を強みとし、自動車部品事業、住宅設備・冷機部品事業、エンターテインメント関連事業を営んでまいりました。

この数年は、海外投資などの問題から低迷が続きましたが、現在取り組んでいる事業構造改革で各事業における“選択と集中”や自動車部品事業へのリソースの“重点投入”に努めた結果、最終売上こそ米中貿易摩擦や新型コロナウイルスの影響により前年を下回ったものの、営業利益は黒字となりました。その方向性の中で、中国の連結子会社である無錫普拉那塑膠有限公司の全保有株式を売却するなど、不採算事業の整理も実行いたしました。

#### ② 自動車部品事業における生産安定化と拡販

自動車部品事業ではこの1年、「リソースを自動車部品事業へシフトし、生産体制の安定化」「新技術であるGMT・TOM成形技術の確立と市場展開」「自動車企業集積地という地の利を活かした拡販」に力を注ぎました。

国内では特に、構造改革計画に従い、従来住宅設備の製造を担ってきた埼玉第一工場（本庄市）を自動車部品事業に転換し、北関東における自動車部品製造拠点としました。海外ではタイ現地子会社、ECHO AUTOPARTS (THAILAND) CO.,LTD.の強化を行い、わが国を代表する自動車メーカー各社の乗用車、トラックの内外装品を手がけ、殊に三次元加飾工法はここでも高い評価を受けています。

#### ③ 管理コスト削減と経営組織力強化

使い古された言葉ですが、「聖域なきコスト削減」「組織の廃による業務の効率化と計画の確実な実現」等を愚直に進める中で、場合により、利益を出せない事業にメスを入れ又、組織・仕組みを極力簡素化し、合理的な組織構築を図ってまいりました。特に、経費削減に注力し、物流費などの削減を行いましたが、結果としてこの弛みない改革が、事業に勢いをつけ、為せば成るという自信を社員の中に芽生えさせました。未だ道半ばですが、この流れを継続し、収益改善につなげてまいります。

### スポンサーの力を得て再生を加速する。

構造改革の一つの大きなテーマである財務体質の健全化が急がれる中、信用力回復のため昨年当社は、新たなスポンサー探しに着手しました。多くの候補から最終的に、自動車関連企業をはじめ多くの分野で豊富な投資実績と蓄積されたノウハウを有していることが選定の決め手となり、エンデバー・ユナイテッド株式会社および同社が管理・運営する投資ファンド「エンデバー・ユナイテッド2号投資事業有限責任組合」とスポンサー支援に関する合意書を締結いたしました。

また同時に、金融支援を含めた再建策が必要との判断から、産業競争力強化法に基づく特定認証紛争解決手続（事業再生ADR）の申請を行い、去る4月14日全ての金融債権者の同意のもと、事業再生計画が承認され事業再生ADRが成立いたしました。これにより、当社の財務体質は格段に強化されました。

### 見え始めた光を目指し、進み続ける。

#### ① 徹底して強みを伸ばす

樹脂加工のエキスパートである当社は、射出成形、押出成形、真空成形、GMT成形、TOM成形を強みとして、事業を展開してまいりました。特に、当社の代表的技術であるTOM成形は、意匠性と機能性を高める加工法であり、触感も含めた豊かな表現を可能とし、分野を超えた幅広い展開が期待されています。又、当社独自の最新技術GMT成形は、ポリプロピレンなど熱可塑性樹脂をガラス長繊維マットで強化する製法であり、鋼材に代わる軽量化部材として注目されています。さらに従来の真空成形をはじめとした技術も一層の改善を加え、伝統的であり且つ、新しい技術にしていきたいと考えております。今後はこれら技術のシンクロにより、さらなる用途開発を目指し、新分野の開拓を進めてまいります。

#### ② 将来の柱を育てる

当社の中期経営計画では、事業の中核を自動車関連部品事業としました。自動車関連メーカー様との連携による生産体制の安定化を礎として、盤石な事業モデルの確立を目指してまいります。

又、自動車事業のみならず住設事業やアミューズメント事業も其々、現に当社の基盤の一翼を担っております。当社の持つ新技術、特に自動車事業で培われた管理手法や新技術の横展開により、これらの市場でも事業拡大を図っていきたくと考えております。

#### ③ 再生へのスタートを切る

タイ、ベトナムにおける自動車部品事業及び住宅設備・冷機部品事業は、タイ現地の友好企業であるCPグループとの協力確認も行われ、今後一気に加速するものと期待されます。

私どものスポンサーとなったエンデバー・ユナイテッド株式会社からは、強固な収益基盤の確立と財務体質の抜本的な改善のための経営支援の約束に加え、経営体制強化へのアドバイスも頂戴しております。この数年、当社は株主の皆様にも多大なご心配をおかけしてまいりましたが、ここに新たな飛躍に向けて再スタートしたことをお伝えいたします。

